

## 診療で聞くがんの7つの質問

- 1)がんは2人に1人がなるんですよね？
- 2)がんは治らなかったら死ぬんですよね？
- 3)私のどこが悪くてがんになったのでしょうか。性格でしょうか？
- 4)西洋医学以外で治す方法はないのでしょうか？
- 5)最期を自覚しています。しかし、私は「死を受け入れて」今を  
生きた方が 良いのか「希望をもって」今を生きた方が良い  
のか、どちらでしょう？
- 6)死んだらどうなるのでしょうか？
- 7)がんとは何でしょうか？

### 診療で聞くがんの7つの質問

今回の通信は私が外来や訪問診療で聞くがんに関わる質問を7つにまとめて、簡単にどうお応えさせて頂いているかをご紹介します。この内容は現時点での私の思い（本音）を書いています。所謂エビデンスをもとにしてはいるわけではなく、信じるというレベルになります。ですから、正しいかどうかは不問でお願いしますね（つまり私の信じている事であり、正しいかとは別の次元です）。しかし、何かしらがんを悩まれている人の参考になればと思います。一つずつ、その質問へ皆さんならどうお答えになるか、自分の回答を考えながらお進めください。

## 1) がんは2人に1人になるんですよね？

⇒がんは2人に2人ともなっています。  
でも2人とも治るようになっています。  
ただ、1人は治る邪魔をしているのです。  
邪魔とはあなたの悪しき生活習慣です。  
その結果2人に1人はがんが消えず2人  
に1人ががんになったかにみえますが、  
本当は2人に1人しか消せていないのです。

### 1) がんは2人に1人になる？

⇒実はがん細胞は2人に2人とも、100人が100人とも作っています。ですから、正解はだれでもがんになっています。しかし、もっと重要なことは、がんは2人に2人ともなりますが、2人とも治るようになっているという事です。できたがん細胞を、特に良好な睡眠中にリンパ球（NK,CTL など）が中心になって6～8時間で全て除去します。これを自然治癒力と言います。しかし、がんを作った人は、この自然治癒力を邪魔していたのです。その生活が習慣化し無意識の中で自然治癒力阻害生活（悪しき生活習慣）をしてしまっていたと言えます。しかもその生き方を「仕方ない」とか「当たり前」だと言って弁明する人達です。その結果、本来なら100%がん細胞は消えるのに消え切らず、それが年余にわたると、とうとう一定の大きさまで成長します（直径5mmで2000万個のがん細胞）。現代人は、実にこの悪しき生活習慣をしている人が2人に1人いるので、正確には「2人に1人になる」のではなく「2人に1人しか消せない」というのが正しいのです。重要なことは、がんは偶然できたのではなく、自分の悪しき生活習慣が原因だという事です。しかも、その習慣は無意識（当たり前）のため、あまりに気が付きにくいという事です。

こうして知らないうちにがんは成長するのです。

## 2) がんは治らなかつたら死ぬんですよ？

⇒**がんが治ってもいずれ死にます。**

**あるのは順番だけです。私も皆同じです。**

**われわれは兎角がんになると「治すこと」に躍起になります。これは間違いです。がんが治ってしたい事をするために治すのです。あなたは「がんになって治すために生まれてきた」のでしょうか？**

### 2) がんが治らなかつたら死ぬんですよ？

⇒はい、でもがんが治ってもいずれ死にます。あるのは順番だけで、これは生きるものの宿命です。しかし、死にたくない私たちは、死なないための選択を始めます。苦しく痛い治療も治るためには我慢します。すべては治すためですが、正確に言うのがんが消えても延命をしたに過ぎないという事です。延命処置は嫌だという人は多くいます。しかし、人間は「宿命」として「死」がある以上、すべからく、全てのがん治療は延命治療でしかないという事です。勿論、それは無意味ではありません。私たちは有限の時を生きる以上、その有限の時間が長ければ、成したいことも成就しうることになるからです。ですから、死にたくないから治療しますが、死が宿命である以上、死なせない医療は必ず敗北すると言えます。ですから、重要なことは、治って何がしたいか？です。治すことは手段であり、治す目的があるという事です。しかも、がんだからこそ「死と直面」します。これは同時に「何のために生きる？自分は何もの？」という究極の問いを自らにすることになります。こんな自問は「死と直面」しない限り通常では考えませんね。頭の中を「なぜ」「どうして」が逡巡します。しかしそのお陰で、自らを深みへと誘い、本来で本当のそのために生まれて来たという自分を見つけることができるのです。本来で本当の自分に気が付く瞬間です。このことに気が付くと、人はそう生き始めます。私はこれを「リボンした生き方」と言っています。

私は実は、これががんの最も重要な意味だと思っています。がんの言い分ですね。

### 3) 私のどこが悪くてがんになったのでしょうか？性格でしょうか？

⇒がんの原因は「悪」ではなく「無理」です。  
3Gという性格は「がん性格」と言いますが、  
がんを作りもしますが治しもあります。

#### 3G=我慢・頑張る・頑固者

性格は注意が必要で、「もっと我慢しな  
きゃ！もっと頑張らなきゃ！」が「**当たり前**」  
と思う癖が無理を生じます。お人好しに多い！  
がんの原因はあなたの**無意識**にあります。

#### 3) がんの原因は「悪」？私の性格が悪い？

⇒良く外来で聞かれます。しかし、がんの原因は「悪」ではなく「無理」です。ではなぜ無理するのか？それは多くの場合「お人好し」だからです。お人好しの方は、「何かお役にたちたい」と思う人が多く、その結果、何であれ我慢して頑張ります。そもそも我慢して頑張るときの心根は「もっと我慢しなくっちゃ」「もっと頑張らなくっちゃ」です。そう思う時点で既に我慢、頑張りが過ぎていることに気が付くべきですね。しかし現実的に、だれもが社会生活を営むためにはある程度の頑張りや我慢は仕方ないと思いますが、ここに「頑固」が加わると継続する力（習慣化）となり、身体的に一番弱いところ（平素無理をかけている臓器）にがんが生じることになります。この性格を3G（我慢して頑張る頑固者）と言いますが、本人は3Gだとは思っていません。多くの場合、それが「当たり前」だと思っています。思うというより意識にも上りません。「当たり前」は意識化しにくいという特徴があるのです。順天堂大学医学部の小林教授は著書「無意識の力」の中で「われわれの行動の9割は無意識的だ」と述べておられるくらいですから。つまり、がんの原因は自分の無意識（当たり前）のなかにあり、それを我慢して頑張る頑固者（3Gという）という性格が後押しして登場すると言えます。この性格は悪いのではなく、まずそこに気が付けばよいのです。がんの原因の無意識に気が付き「これだ！」と分かった時（意識化された時）に、その新しい生き方から、それこそ今度はその3Gをもって離れるのです。離れれば離れるほどがんからも離れます！しかし、がんを作らないに越したことはないので、お人好しのあなた、ご注意ください。

## 4) 西洋医学以外で治す方法はないのでしょうか？

⇒そもそも西洋医学は治していません。治るサポートをしているだけです。

治す本体は**自然治癒力**です。

それを引き出すために最も大事なことは**正しい生活習慣**です。

自然治癒力を引き出す**5か条**があります

①良眠生活②良食生活③加温生活④運動生活⑤微笑生活

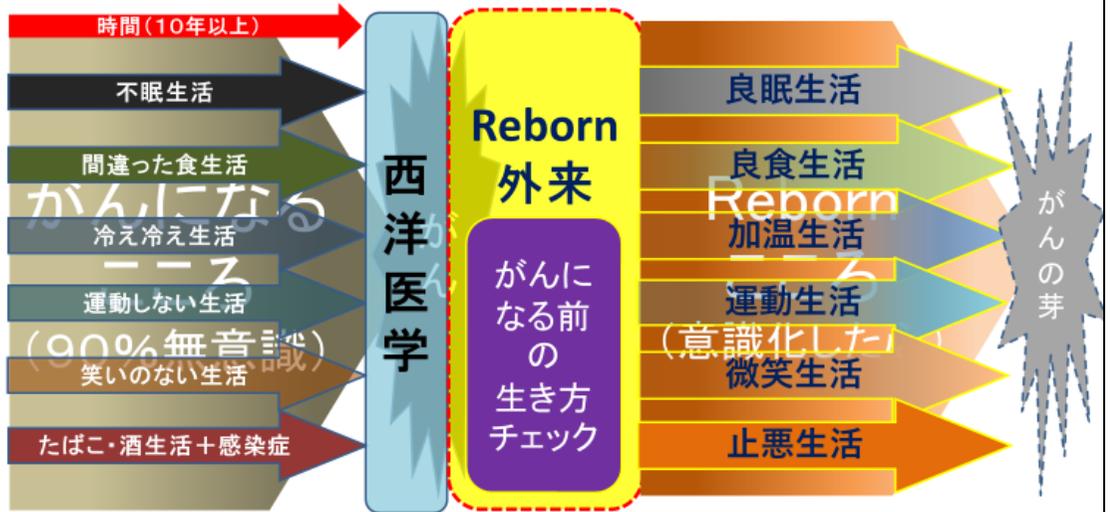
### 4) 西洋医学以外で治す方法は？

⇒そもそも西洋医学に関わらず、全ての治療や療法はその人を治すことは出来ません。すべて治す手助け、サポートをしているだけです。治す本体は自己の生命力＝自然治癒力です。その特徴は、できるだけ大自然な場所でできるだけ自然体で本来的に生きることが習慣化するほど引き（湧き）出されます。本来的なあり方は個々人に違いはあるものの、共通した免疫活性のコツがある事が分かっています。私はそれを5か条（①良眠生活②良食生活③加温生活④運動生活⑤微笑生活）にまとめましたが、詳細は今までの通信で紹介してきたとおりです。

特に、食事と睡眠は重要で、①良眠と②良食が出来ずに、病気が治ることはないと言っても過言ではありません。外来で、治療法や有効率ばかりに目が行き、生活習慣がぞんざいになっている人は少なからず見えますが、私はその前に、「ちゃんと眠り、食事も摂れていますか？」とお聞きします。どんな良薬や治療も、先にこの二つが出来ている事が必要条件だからです。

不眠や食欲不振を招く大きな原因は3つあります。「痛み」「不安」「仕事で寝ない」です。つまり、がん治療では最初に、まず痛みを取り、食欲を確保し、仕事で良眠できないという人は、休職していただき、通常の治療法を始めます。まず、この3つの要因をクリアしてから始めるのです。痛みや不安があり寝られない人は、痛み止めや睡眠薬は抗がん剤だと話し服用して頂きます。薬は飲みたくないと言われますが、この際、服用する害よりも、服用せず痛みや不眠がある事の方が遥かに悪いからです。とりあえず、痛みや不安がなくなれば眠れます。眠れば免疫機構（活性リンパ球の発動）が勝手に働くからです。

## 参考1) 自然治癒力の5か条とは



この5か条実践の力、そんな事例を紹介しましょう

### 参考1) 自然治癒力の5か条とは

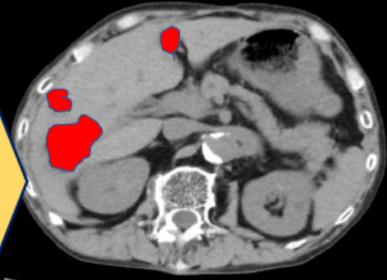
⇒もう少しわかりやすくこの5か条を説明しましょう。本人の当たり前ゆえ「不眠」となり、「まちがった食事」「冷えある生活」「運動なし」「笑いなし」の生活を10年以上続けるとがんが成長し登場します。西洋医学は優れた除去(対処)方ですが、それだけでは治療半ばです。なぜがんを成長させたかをそれまでの人生生活を省みて正し、まずは免疫を削ぐ生活習慣は早速やめます。加えて、免疫を上げる新しい生活を開始。これをリボーン生活と言います。すると、がんからは離れざるを得ません。リボーンした後は、5か条が有機的に稼働しその結果、免疫力も十全に機能するため、がんの芽は登場してもその日のうちに消去されます。100点を目指さなくとも大丈夫ですが、当たり前なので、つつい疎かになりがちですから、3か月は継続が重要です。習慣化させるためには最低3か月は必要だからです。

## 参考2) 5か条実践の力 →事例紹介Iさん(73歳)



X年5月28日嘔吐。GFにて胃癌による幽門狭窄。精査にて多発肝転移、リンパ節転移。腹水(がん性腹膜炎)余命は無治療で3~6か月、抗癌剤治療すれば1年。そしてBSCにて7月8日当院紹介

良眠  
良食  
加温  
運動  
微笑  
止悪



それから4か月・体重が8kg増えた！食欲が上がり、顔の艶も良くなった。奥様から、「いつ悪くなるのか？」と聞かれ返答に窮し、腹部CTを撮る事にした。すると・・・

Iさんは、その後1年たった今も元気に外来通院されている。ただ、がんは消えていない。

### 参考2) 事例紹介Iさん

⇒このスライドも過去の通信(2019.1.2月号)でご紹介しましたね。胃がん末期で、昨年(平成29年5月)某市民病院で余命3~6か月の診断を受けた男性です。「余命宣告されて初めて本気で生き方を転換する決意をした」と言われるIさんは、私の提案する5か条+止悪(禁酒、禁煙)を完全に実施しました。その結果、図のように肝臓の9割を占める巨大転移が、4か月で1割程度まで減少しました。加えて、がん性腹膜炎の腹水もすべてなくなり、腹部リンパ節転移もすべて消失しました。何より体重が8kg増えて、顔の艶も良くなったのです。もしこの時に何かサプリを飲んでいたら、そのサプリが著効したと言われかねませんが、Iさんは生活習慣の改善以外何もしていません。本原稿執筆中既に1年半以上が経過していますが元気に外来通院中です。がんはまだ消えていませんが、その後大きくはなっておりません。

これが、自然治癒力の持つ力だと言えます。

重要なことは、このIさんと同じ力をあなたも持っているのです。ただIさんは「あなたは治りません。余命3~6か月でしょう。お酒やタバコも今更止めなくて良いんじゃないですか。思い遣しのない事が重要ですね」と言われて、「いや俺はまだ死ねない」と思ったところが普通じゃないかもしれません。周囲も皆がんで亡くなり、「がん=死」という構図すら持っていないながら、腹痛があれば「やっぱり駄目じゃないか？」と弱気にもなると思うのに「大丈夫！」と信じる気概ですね。今回の奇蹟はここから始まったと思うのです。

あなたも医師からここまで言われて、その言葉を聞かない勇気がありますか？

**5) 最期を自覚しています。しかし、私は  
「死を受け入れて」今を生きただ方が良いの  
か「希望をもって」今を生きただ方が良いの  
か、どちらでしょう？**

⇒あなたはどう思いますか？価値観の問題ではないか？  
BC100年ころ古代ローマの詩人ホラティウスの詩の一節から  
「メメント・モリ *memento mori*」の趣旨は *carpe diem* (今  
を楽しめ) ということで、「食べ、飲め、そして陽気になろ  
う。我々は明日死ぬから」というアドバイスであった。

(Wikipedia)

藤原新也の写真集「メメントモリ」にはこう書いてあります。  
「・・・世界はわれわれの思った通りになる」つまり「死を  
受け入れて生きる」も「希望をもって生きる」(参考3)

5) 最期の死を自覚した時の心構えとして、「死を受け入れて今を生きるべき」か「生きる希望を

もって今を生きるべき」か・・・どちらが良いのか？

⇒さてこれは返事が難しいです。1人の心の中で、この両方の思いは揺れ動くからです。しかし、こうした心の中の葛藤は昔からあるようです。古代ローマ時代の詩人ホラティウスの詩の一節にこうした句があります。「食べ飲めそして陽気になろう。われわれは明日死ぬから」。この前半は「今を楽しめ」で「*Carpe diem* (カルペディエム)」と言い、後半は「死を思え」で「*Memento mori* (メメントモリ)」と言います。ホラティウスは *Memento mori* の趣旨は *Carpe diem* だと言うのです。しかし、実際に死を自覚しながら希望を持つことは難しいことですね。

参考3)「今を生きる」  
Carpe diem

= 「死を思え」  
Memento mori



道をたずねた  
老婆は答えた  
上さまに行けば山、  
下さまにいけば海

どちらに行けば極楽でしょう  
どちらさまも天国  
どちらさまも地獄  
世界はあなたの思い通りになる  
(本文中のある一節)

### 参考3) 今を生きる=死を思え

⇒藤原新也さんの著書「メメント・モリ」では、こういうくだりがあります。「世界は我々が思った通りになる」。どちらも決定者はあなた自身であると言っています。

私自身は、この人の本心は「死を受け入れると言っても、今生きている。死を受け入れて生きるとはどういう事か？そして、日ごとに悪くなってゆく自分が希望をもつことなんてできるのか？」・・・「これから一体どうなるのか？不安だし、何より怖い・・・」

## 参考4)「しかし・・私はこう答えた」 Sさん65歳女性、隣がん末期。

S 「先生、私は困っていることがあります。私はもう治らないことは知っています。でも、私は『死』を受け入れて今を生きた方が良いのか、それとも『生きる』希望を持って今を生きた方が良いのか、どちらがよいのでしょうか？」

D 「そうですね・・・Sさん、もし、がんが消えたら、あなたは何がしたいですか？」

S 「ええ～？……そうね・・娘と一緒に散歩とか、買い物」

D 「Sさん、あなたは死んではいけません。だって死んだら、娘さんと散歩や買い物に行けないでしょ？だから死んではいけないのです。でも実は、あなただけではなく、ここにいる全員、私も看護師長も全員いずれ死にます。宿命は変えられません。あるのは順番だけです。もう一度言います。あなたは死んではいけません。少しでも長生きしてください。そして、仮にがんが治ってそれからしたい事を今するんです。今してしまうんです。それが癌を治す目的だからです。娘さんと一緒に散歩でも、旅行でも何でも良いですから。・・さあ、これから忙しくなりますよ。」

その翌日Sさんは、娘と一緒に近くのスーパーへ買い物へ。翌週には娘と琵琶湖畔のホテルへ一泊旅行へ行かれた。黄疸強く、麻薬を持って車椅子の旅行であった。

### 参考4) 「・・私はこう答えた・・」

⇒「Sさん、もしがんが消えたら、あなたは何がしたいですか？」と聞き返したのです。Sさんは、少々戸惑って「娘と一緒に散歩とか買い物」と言われました。そこで私はこう答えました。

「Sさん、あなたは死んではいけません。だって死んだら、娘さんと散歩や買い物に行けないでしょ？だから死んではいけないのです。でも実は、あなただけではなく、ここにいる全員、私も看護師長も全員いずれ死にます。宿命は変えられません。あるのは順番だけです。もう一度言います。あなたは死んではいけません。少しでも長生きしてください。そして、仮にがんが治ってそれからしたい事を今するんです・・」

人は最後の最期まで希望を持ちたいものです。死にたくないのです・・が、当然です。しかし重要なことは、治療とは「病気を治す」ためではなく「病気が治ってしたい事をするため」である事を知るべきです。今、死を受け入れようが入れまいが、希望を持とうがもたまいが、その先に何がしたいのか？そのために治すのだと言うことを知ってください。

## 6) 死んだらどうなるのでしょうか？ 「あの世」はあるのでしょうか？

⇒あなたはどう思いますか？

価値観の問題なので患者に合わせる。

「死んでお終い」⇒そうですね・・・

「死後に世界がある」⇒そうですね・・・

**正解はその人の中にある**

(医療者は仮説の死生観を持つ必要があります)

### 6) 死んだらどうなる？「あの世」はあるの？

⇒皆さんはどう思われますか？宗教では、死後の世界については多く肯定しています。しかし、この問題は実はとても重要な視点があります。それは何か？実は「あの世」について、「あるかないか？」という疑義は科学的命題で、客観的な傍証、根拠が必要となり「あるかないか」の科学的究明が必要だという事です。しかし、あの世はあると「信じるか否か」となると、これは個人的価値観の問題ですから個人の自由です。信教の自由ですね。つまり、死後の世界も、あの世もはたして患者さんは科学的に存否を聞いているのか？という点を医療者は注意して聞くべきですね。なぜその質問をするのか？という気持ちに寄り添う事が重要だという事です。

しかもこの質問で重要なことが更にあと2つあります。まず1つ目は、その人は既に「人生の最終章を考え始めている」という事です。これは、病気や運命を受け入れていると言えるという事です。2つ目は「思う」という価値観の話なら客観的正解はないと思った方が良いのですが、実は「正解」はあるので注意が必要です。その正解とは「その人の中に」あります。よって、その対応はそれを聞き出せばよいことになります。つまり、質問へはオウム返しで応えるのです。「死んだらどうなる？」⇒「どうなると思いますか？」。「あの世はあるの？」⇒「どう思いますか？」で良いのです。ただ、どんな返事が返ってくるかは想定する必要があります。我々医療者は「その人の正解はその人の中にある」ことを知って、上手に聞き出せるかが重要だという事です。せめて医療者も信じなくても良いですが、どんな質問や回答が来てもそれに合わせられる「仮説の死生観」は持つ必要があると思います。

ちなみに私は「あの世はあると信じる」派です。その方が楽しそうじゃないですか。

## 7) がんとは何でしょうか？

⇒がんには言い分があります。もともとあなたの細胞たちが何かの理由（悪しき生活習慣）でがん細胞に変わりました。

「今のままの生き方は違うよ、もう時間がないよ。本来で本当のあなたの生まれて来た目的は何でしたか？さあ、今一度甦りましょう」⇒そういう施設が欲しい！

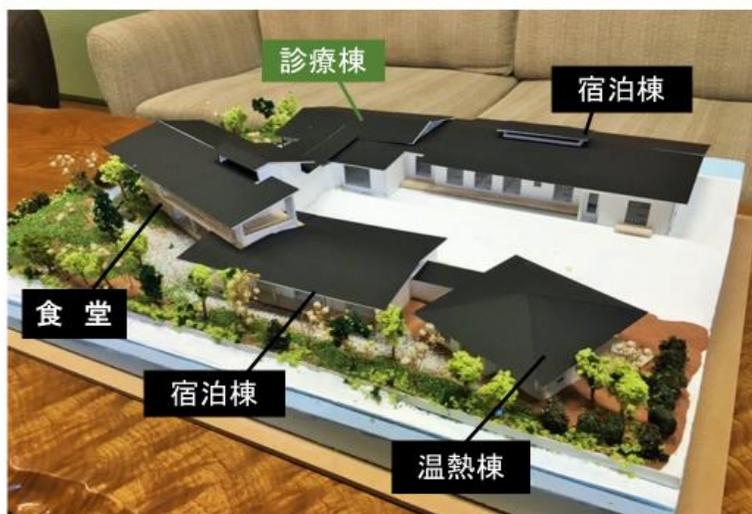
**そういう施設が出来ました！Reborn 洞戸**

### 7) がんとは何か？

⇒がんとは一面では、間違いなく「われわれの命を喰い縮め、死に至らしめる恐ろしい病気」と言われています。本当でしょうか？そもそもがん細胞は、もとは自分の細胞です。なぜがん細胞になったのか？新潟大学教授の故安保徹先生によれば、酸素不足の厳しい環境でも生きながらえる力を獲得した細胞たちだと言われました。先にも書きましたが、がんの原因は無理です。食事がぞんざいで、冷えのある、運動しない、笑いもなく睡眠もとらない無理な生活が習慣化し、ついに正常細胞ががん化するのです。ですからがんの言い分は一つ「生き方を転換しなさい」なのです。間違っても「死ね」とは言っていない（船戸のアンケート調査から）。つまり、がんの言い分とは「今のままの生き方は間違っているよ。もうこのままじゃ時間がないよ。本来で本当の自分のしたいことをしていますか？さあ、今一度甦って、本来で本当の自分の願い（本願）を思い出して生きてください。と言っているのです。

しかし、現代の日本には、がんの言い分を聴く施設などありません。それで、私は昨年1月に郷里の岐阜県関市洞戸にがん予防滞在型リトリート「リボーン洞戸」を建設したのです。

## Reborn洞戸；がん予防をテーマにした医療施設＋宿泊施設



補完代替医療  
(自費診療のみ)

合体

生活習慣の改善

- ①良眠生活
- ②良食生活
- ③加温生活
- ④運動生活
- ⑤微笑生活

### リボーン洞戸とは)

繰り返しになりますが、私はがんを悪とは思っていません。勿論、心情的には現代日本においては多くの尊い命をもっとも奪う「憎き」病気だという不名誉なレッテルを貼られてしまいました。しかし、その原因を見れば見るほど、なぜ日本でこの病気が多いのか？なぜここまで優秀な医療人が努力しているにも関わらず、なかなか日本では減らないのか？という点ではがんが減らないのは不思議としか言いようがありません。もはや、現代西洋医学のがん撲滅法である、早期発見早期治療と3大療法（最近は免疫療法を入れて4大療法）では、撲滅は不十分であるといえるのではないのでしょうか？そうです、がん治療の在り方、いやもっと本質的にがんそのものの捉え方にパラダイムシフトが必要なのではないか？と思うに至りました。

私の考えは、ここまでの質問への回答に既に含まれています。今一度簡単にまとめますと、「がんはその人の生き方が作り育てたものです。ですから、原因はひとえにあなた自身のがん発症前の生き方（習慣）です。まずこの原因となる間違った生活習慣を見直し、特に5か条に沿ってそれを修正してください。加えて、なぜそのような生き方をせざるを得なかったかを深く内省し（自分の無意識や当たり前を検証する）そして小さくとも原因を見つけたら変える事。少しずつ、そしてその新しい生き方を実施してゆく。これをリボーンと言います。リボーン生活は間違いなくリボーンされた分、今のがんから離れます。

この新しいがんから離れる生き方が、今一度自分の無意識に落とし込まれるまでに約3か月はかかりますが、最初は意識的に進めてください。そのうち新しい本来の自分の人生が始まるはずです。その時、がんもIさんのように消失してゆくのだと思うのです。」

がんは「消すもの」ではなく、「消えるもの」なのです。

## リボーン洞戸とは？

- ①一言でいうとどんな施設？⇒がん予防滞在型リゾートです。  
3つの予防(初発予防、再発予防、進行予防)を目的としています。  
特に、末期など治療法に苦慮されている方もご利用いただけます。
- ②対象は？⇒がんに関心のある方ならどなたでもご利用いただけます。  
(個人で関心がある、グループでの研修会、会社の検診後、術後療養)
- ③がん治療中の利用？⇒主治医の外出・宿泊許可があれば大丈夫です。
- ④利用者数？⇒12室、14人まで(ツインが2室)できるだけ、お一人で！
- ⑤点滴や医療処置のある人はご利用できません。身の回りの事をご自身でできることが条件となります。(当施設はホスピスではありません)
- ⑥ステイの申込みは？⇒出来るだけ事前にリボーン外来を受診ください。
- ⑦ステイするとリボーン出来る？⇒わかりませんが最大限サポートします。
- ⑧アクセスは？⇒JR岐阜駅までお迎えに上がります。(要予約)
- ⑨目指すリボーンとは？⇒「がんちゃんのお蔭で」と思える心。本当の自分に甦る。 電話予約 ⇒ 0581-58-2311(池田・児玉)

そしてさらに重要で陥りやすい盲点は「治すこと」に躍起にならないという事です。我々はがんになって治すために生れて来たのか？と問えば、皆さんは何と答えますか？私は、「治すため」の人生は明らかに間違いで「治って何がしたいのか？」こそが大事だと思うのです。がんとは「このままではあなたの人生の砂時計は終わるよ、本当に終わっていいの？あなたは本来で本当にしたいことをしていますか？」とイエローカードをあなたのために出しているという見方できるのです。実は、それは本当はがんのあなた自身が一番知っている事です。これを邪魔しているのが、今の分刻みの皆さんの日常生活です。いやいや俺の人生は充実している、わざわざがんになる必要はないという人、「笑顔」がありますか？どこかで「しかたないじゃないか！」という思いや「やっとほっとできるかな？」なんて言う思いはないですか？本当の自分の魂とつながった生き方が出来ていないのかもしれないですね。

だからこそ、これだけがんが蔓延する現代、実は問われているのは、「本当の自分を自分らしく生き生きと楽しく生きる(リボーンする)」事に尽きると思うのです。なぜなら、だからがんはいまだに減少していないのですから。こうしてがんは皆さんの生き方を本来で本当の生き方へとリボーンするように誘っているのです。

私にはさながら「がんはリボーンのメッセンジャー」に見えます。

私がしたいこと、それは「がんの復権」です。そして、現在日本にはそうした施設がないので、私の郷里につくったのです。大自然に抱かれたゆったりしたところです。どうぞ、一度おいでくださいませ。がんに関心ある方ならだれでもご利用できますよ。

## まとめ

- 1) がんは2人に1人になるんですよね？⇒2人に2人ともなりません
- 2) がんは治らなかったら死ぬんですよね？⇒治っても死にます
- 3) 私のどこが悪くてがんになったのかと思います。性格でしょうか？  
⇒がんの原因は「無理」です。お人良しが多いです。
- 4) 西洋医学以外で治す方法はない？⇒治すのは自然治癒力です。IM
- 5) 最期を自覚しています。しかし、私は「死を受け入れて」今を生き  
た方が良いのか「希望をもって」今日を生きた方が良いのか、どちらで  
しょう？⇒両方は同じで心しだい。(Memento Mori&Carpe diem)
- 6) 死んだらどうなる？⇒あなたは どう思いますか？(価値観論ゆえ)
- 7) がんとは何でしょうか？⇒「生き方を転換しなさい」そして「本来  
で本当の自分に甦りなさい」というメッセージ。